

戸崎・花房・菊之池エリア



1 菊池家琵琶



有形文化遺産
地図 C-3

甲森北区の宮川家（33戸）により約600年間にわたり伝承されている琵琶であり、このことは菊池風土記にも記載されている。菊池家琵琶は、毎年持ち回りにて大切に保管されており、琵琶の持ち出しあ是不可能である。

2 火の天神と墓地



複合的遺産
地図 B-1

中世菊池氏の居城時代は戦略の拠点としてこの地に烽火を上げ、敵の襲来を本城に通報したといわれ、ここに生える樹齢数百年の椋の木を御神木として崇めている。墓地は戦国時代の墓地と思われ、盆、正月と彼岸に棹あげて供養している。

3 赤星井手



産業遺産
地図 B-2

戸崎村大字今に堰を設けて井手口に導き入れる。この井手は、天正の末期から慶長年間にあいて加藤清正公の代に開削した赤星・出田の二地域である。

4 菊之池城(深川館)跡



有形文化遺産
地図 B-1

別名を菊池古城・深川城・雲上城といい、大宰府の府官であった藤原則隆が館を構えた所で、城としての備えを持っていたと考えられる。守りの城としては適していないため、南北朝の騒乱期に、守山城が菊池氏の本城となつた。

5 菊池氏初代則隆公墓所並びに頓宮



有形文化遺産
地図 B-2

大宰府将監だった菊池則隆は、延久2年に深川に居館し、菊之城を構えた。則隆は永保元年に死亡し、深川村上原に葬られたとされる。その墓は文化15年につくられ、3回の工事を経て、現在に至っている。

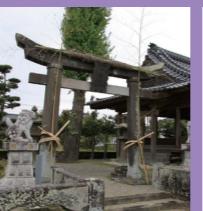
6 菊之池跡



複合的遺産
地図 B-2

深川に、隈府扇状地の豊かな湧水地があるが、この池が菊の花の形に似ていたことから、菊之池と呼ばれ、ここから菊池の地名が起つたと言われている。池の周りに菊花が咲いていたので、菊之池と呼ばれたとも伝えられている。

7 村社佐保川八幡宮と春祭り・秋祭り



複合的遺産
地図 B-2

菊池則隆が菊の池城を築城後、祭神を応神天皇として佐保川八幡宮を勧請。洪水や焼失により再建され、御遷座を経て平成8年に現在の社殿に改築された。春祭り、秋祭りなど伝統行事として地域住民に継承されている。

8 灰高天神



自然遺産
地図 B-3

樹齢500年ともいわれてあり毎年12月14日に灰高さん祭りが行われる。永年の風雨や台風等により、樹勢の衰えが見えたが、平成20年から21年にかけて樹木医による回復処置を行い、樹勢も回復し、区民の憩いの場として親しまれている。

9 若宮神社



有形文化遺産
地図 B-3

祭神を菊池経隆（菊池氏二代菊池経隆）とし寛文4年（1664年）徳川幕府4代徳川家綱の時代設立され本殿は菊池経隆公墓上に建立された由緒ある神社である。毎年11月25日の秋祭りで獅子舞の奉納、2月25日には春祭りが行われる。

北宮阿蘇神社



北宮集落の中央、菊池川の右岸沿いの道路に面して建てられており、主神は国造速瓶玉命（阿蘇神）である。当社は天授元年（1375）に武朝が、また一説には

天授4年（1378）に武政が勧請したといわれる。

天正7年（1579）に薩兵が乱入して社殿は焼失し、多くの宝物もことごとく略奪され、征西將軍寄進の錦旗も紛失し、僅かに軍配団扇のみが残っている（当社の社宝）。社殿焼失後は御神体を焼残の楼門に安置したが、明暦2年（1656）に宗善右衛門が願主となり、本殿拝殿などが再興された。

所在地：菊池市北宮64

10 六地蔵さん



神来集落のお守りとして六地蔵さんが祀られている。六体の地蔵さんが一ヶ所に祀っているのは珍しく、石碑には石工として稗方区の伊佐次、八兵衛の名前が刻まれている。地区住民により周辺の清掃、献花等を行なうながら大切に祀られている。

11 船つなぎ場



神来集落の南西、横田出手のほとりにある。千数百年前の湖沼時代、菊池川を遡って、第12代景行天皇ご一行が、上陸されたところとい伝えられている。貴船神社の秋祭り（10月15日）には、周りを掃除し注連縄を張り廻し大切に護られている。

12 貴船神社



延久2年（1070年）菊池則隆公がこの地へ無事に着されたことへの報賽のため、京都から勧請されたと伝わっており、御祭神は高麗神（たかおみのかみ）という水神様である。菊池の歴史に深く関わっている神社である。

13 延寿太郎屋敷跡



菊池氏に刀鍛冶として仕えた円寿太郎国村が、砂鉄の採取や用水・交通の便が良いなど、製鉄に適していた西寺に屋敷を構えた。延寿は同田貫と共に肥後に於ける代表的刀工で、後に「菊池千本槍」と呼ばれる槍を作った。

